

愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel：997-2189 メール：airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp



中村市長も六法に初挑戦。
なかなか様になっていますよ！

ゆらり揺らめく かがり火の
炎の赤に照らされて
いにしえ人の伝えたる
勇まし 船出ぞ
いざ 舞い踊らん



秋も深まる十月二十四日の夕刻、興居島の中央に位置する船越和気比賣神社の境内は、多くの人であふれかえっていました。これは、松山離島振興協会と興居島各町連絡協議会が共に企画した『興居島【薪船踊り】』の観覧にお越しいただいた人の波で、興居島で初の試みとなる、船踊りの夜間催行は、多くの市民のみなさんのご観覧をいただき、盛況の内にその幕を閉じたのです。

松山市の坂の上の雲フィールドミュージアム活動支援事業のお世話になり始めて4年目となる本年、協会として、これまでにない新たな取り組みを模索する中で、興居島の住民のみなさんがずっと夢に描きつつも具現化できかねていた【薪船踊り】の夢を現実のものとするべく、協会内に「薪船踊り実行部会」を立ち上げ、興居島各町連絡協議会の全面的なご協力をいただきながら、今回の【薪船踊り】の開催に何とかこぎつけました。開催に向けては、実に8回もの部会を開催し、別途担当者会をたびたび開くなど、関係者のだれもが奔走し、同時に、踊り子のみなさんは、神社の本殿という異空の舞台に戸惑いながらも、与えられた器に見合った新たな踊りの境地を求めて、両保存会がそれぞれに稽古に勤しんだ準備三昧の日々でありました。

そして迎えた当日。観覧席二百二十一席、立見席九十三席、スタッフや踊り子も含めると実に四百人を超える人が境内を埋め尽くし、かがり火への火入れ式、中学生による水軍太鼓の演奏に続き、来賓の中村市長からは、催しへの激励のことばと松山島博覧会へ向けた期待のことばを併せいただき、興居島民一同の心がひとつとなりました。ついに踊りの本番。中村市長も船踊りの基本所作を習い、喝采の拍手を受けます。続き泊地区「興居島船踊保存会」が外題『紅葉狩り』を熱演。艶やかな舞に、皆うつりの様子です。トリを務めた由良地区の「小富士文化保存会」の演目『伊予水軍』で会場内の熱気は最高潮に達しました。

こうして興居島の熱い夜は更けてゆきました。そして、再び波の音だけが聴こえる静寂の闇の中で、船越和気比賣神社は、何事もなかったかのように、船越湾に向かい、今日も静かに佇んでいます。

大人の修学旅行

in 怒那諸島

しまの魅力を
ゆっくりと
そして たっぷりと



怒和島で、まつやまブランド「ぼっちゃん島あわび」の養殖いかだを見学する参加者

今年度初めて取り組んだ体験型の宿泊事業『大人の修学旅行』について報告します。九月、十月、十二月と3回のツアーを計画しましたが、確たる募集手段を持ち得ない私たち松山離島振興協会は、集客の面でたいへんな苦勞をいたしました。市の坂の上の雲まちづくりチームや企画政策課の支援で、早い段階での広報紙掲載をさせていただきましたが、広報紙は一回きりの掲載というルールがあるため、地元紙やフリーペーパー2社への掲載をお願いしたほか、伊予鉄道郊外線の主要駅および港の待合、船内へのポスター掲示などさまざまな働きかけを行いました。しかし、3コースと手広く設けたツアー企画が明暗を分け、応募のないコースが出るなど、大いに反省を促される結果となりました。やむなく九月のコースを中止して臨んだ十月の神和コース。怒和島、津和地島、二神島をめぐるツアーには、それでも十八名のみなさんの参加をいただくことができました。



十月十七日、好天に恵まれた瀬戸の海を渡り、みなさんに乗せたフェリーが上怒和港へと入港。田中会長ら怒和島のみなさんの出迎えを受け、笑顔で島へと降り立ちます。島にはよく釣りで通っていたという方から、初めて島というところへ来たという方までさまざまです。多くの方が、今回のツアーに釣り体験が含まれての参加希望とあつて、自前の竿をお持ちの方もいらつしやいます。でも、釣り体験は午後からということで、まずはあわびの養殖いかだを見学いただきます。まつやまブランドの「ぼっちゃん島あわび」を育てる現場を間近に見たみなさんは、餌のことや育成の苦勞、個体の成長具合など熱心に観察されていました。見学を終えたみなさんは、再び上陸し、次は昼食を兼ねた島の料理体験です。島では日常的に食卓へ上る「ぜんご」を使った「ぜんご尽くし」のお昼ご飯です。刺身はもちろん、握りずしや酢漬け、ハンバーグなどに姿を変えた「ぜんご」をみんなで美味しくいただきました。そして釣り体験。漁船で沖に出る組と、波止から釣る組とに別れ、糸をたらしめます。そして釣果での干物作り体験でおみやげも万全。夕刻、一行は、一路、宿のある津和地島へ向かいました。

翌日の二神島はちょうど秋祭りでにぎわう日。散策も一味違います。鯛飯作りなど調理体験の後は、生涯学習の時間として篆刻教室を実施。手作りの粘土のはんこは、後日、窯で見事に焼き上げられ、みなさんの手元に届けられました。良い思い出になったことと思います。神和三島をめぐる本ツアーは、参加費は高額でしたが、ご参加いただいたみなさんからは絶賛を賜り、スタッフ一同安堵いたしました。そして十二月、みかん狩り体験をメインとしたツアーは、睦月島と中島を舞台に、島の基幹産業をしつかりと体感していただくとともに、初の試みとなる島の洋食をお試しいただく機会となりました。今回は、モイカを使った海鮮パスタと、鯛のムニエル、うに丼を味わっていただきましたが、今後も引き続き、新たなメニュー開発に取り組めます。恒例の生涯学習は、なかなかあつしさんの指導で木彫り教室を開催。島の情景を刻んだ板はがきは、中島郵便局の消印で参加者宅へと配達されました。体験型の宿泊事業。たいへん奥の深いテーマへの取り組みですが、協会ではじっくりと事業検証を行い、専門家との連携も取りながら、今後、この事業が島の起死回生策となるよう取り組んでまいります。



清掃ボランティアを募集します 小富士山のあの眺めを再び！



チェーン・ソウや竹引き鋸などを駆使し
生い茂る巨竹群と悪戦苦闘すること3時間

興居島のシンボル「小富士山（こふじさん）」。興居島の最も高い山で、姿の美しさから「伊予小富士」と呼ばれています。標高は二百八十二mで、山頂には石鎚大権現神社が祀られています。登山道はかなり険しく、成人の足で四十分程かかる道のりですが、頂上からの景観はすばらしく、松山市街はもちろん、釣島や忽那の島々が一望できる環境にあります。

俳聖 正岡子規は、興居島ののどかな情景を「鶏（とり）なくや 小富士の麓 桃の花」と詠んでおり、島のシンボルである小富士山は、特産の桃とともに、子規にとって興居島の強いイメージとなったようです。

また小富士山の隣に並ぶ標高百二十二mの子持山は、その位置関係から「裏小富士」とも呼ばれています。



作業を終えた面々

さて、そのすばらしい景観を誇った興居島のシンボルである小富士山も、近年では登山者の減少から登山道が荒れ、山頂には竹が生い茂り、次第にその眺望も失われていました。こうした状況を憂い、再生を願う島民の切なる声を聴き、松山離島振興協会では、昨年四月十一日に、小富士山の竹伐採に着手しました。

当日は、からりとした作業日和でしたが、機材を手に山頂まで歩くのもう汗だくです。二十人のメンバーは、チェーン・ソウやなた、竹引き専用の鋸、剪定ばさみなど手に、斜面を覆いつくす竹や雑木、蔓、山頂で巨大に成長した巨竹群を相手に、延々と作業に没頭。途中休憩したものの、3時間格闘の末、何とか陸側の眺望と、釣島側にも一部景観を得ることができました。この話題は2009春号でお伝えしましたが、小富士山の眺望が完全に復活したわけではありませんが、今年も引き続き、竹伐採作業を行うこととしていきます。日時は四月三日土曜日、九時三十分からです。多くのみなさんのご参加をお願いいたします。



4/17(土) 「第5回 松山離島振興協会 総会」
4/29(木・祝)「松山島博覧会 オープニング・イベント」



松山離島振興協会は、この4月で設立から丸4年を数え、来年度からは5年目の活動期に入ります。4月17日には、「第5回 総会」を興居島の由良公民館で開催する運びになっていますので、会員並びに賛助会員のみなさんには、多数のご出席をお願いいたします。なお、一般の傍聴も大歓迎です。

また4月29日には、待ちに待った「松山島博覧会 オープニング・イベント」がアイテムえひめで開催されます。各島のブースが開設され、それぞれの島の魅力を存分に味わっていただくほか、島の伝統芸能や、北条地区、三津・古三津地区など臨海部の出し物も用意されるなど、盛り沢山の催しとなっていますので、島嶼部のみなさんや市民のみなさんはもちろん、市外からも多くのみなさんにお越しいただければと思っています。「しまはく」を起爆剤に、各島で色とりどりの花火を咲かせていきましょう。

睦月 お大師参りウォーキング & 興居島【島四国】



平成19年から開催し、今回で4回目となる「お大師参りウォーキング」が4月10日（土）に開催されます。睦月島の春の風物詩となっているこのウォークは、山の中腹を8の字に走る農道を歩くウォーキングに最適なコースです。お楽しみに。

そして、4月20・21日（火・水）には、忽那諸島では最大の「島のお四国さん」「興居島【島四国】」が開催されます。こちらは、今年は平日の開催となりますが、この両日は弘法大師のご入定（にゅうじょう＝命日）の日と、その前夜でお逮夜（たいや）と呼ばれるお大師様ゆかりの日となりますので、ぜひ多くのみなさんに、2日間をかけお参りいただきたいと思います。



【地域産業部】

毎月第4日曜日に開催の「道後湯あがり朝市」への出展も4年超となり、固定客と呼べる方々がいつも心待ちにしてくれています。特に鮮魚への期待は大きく、地元のみなさんからは休んでいることへの不満を訴えられるほどです。一方で、生ものは観光客からは敬遠されますので、塩干物はなくてはならない看板商品です。お客様のニーズに合わせた品揃えが求められますが、何より、美味しく安全なことがもっとも大切です。今後も、自慢の地産商品で、地消のみならず、全国展開をめざしていきます。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 島原和暁

Tel.961-3293



【観光振興部】

『大人の修学旅行』『薪船踊り』と大事業を経験し、自らを「まだまだ」と思う反面、もう少しがんばれば「何かが見えてくる」という気もしています。それは、参加者の声であり、賛否両論の意見の中にこそ、ステップアップのヒントが隠されていると思います。

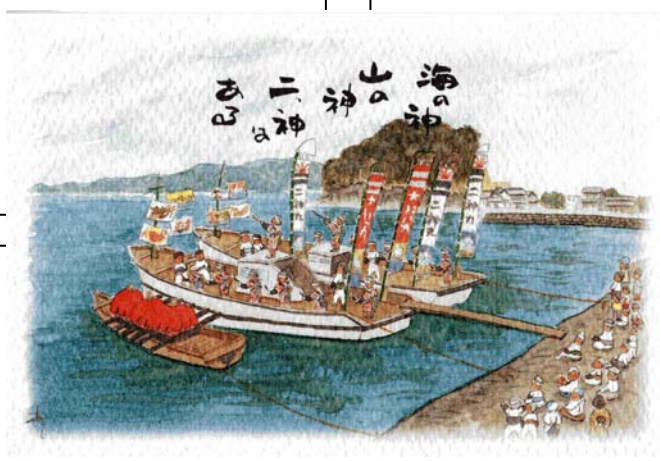
来年度は待ちに待った『しまはく』。もうそこまで来ているチャンスの芽を摘むことなく、島のみんなが力を合わせて、その芽を大事育んでいきたいと思っています。

たくさんの芽が育ち、9つの島全部に、潤いのある豊かな森が形成されますように…。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 田中 治

Tel.998-0243



【しまづくり部】

島の祭りはさまざまで、島それぞれの特色にあふれています。神輿や獅子舞い、だんじりに船踊りと、どれも違ったおもしろさがあります。この伝統文化を守り継いでいくことが、なかなか容易ではなくなってしまった現代、島の歴史・民俗を後世に伝えることは、とても重要なことだと思っています。

松山離島振興協会は、忽那9島のそれぞれの魅力を十分引き出し、それらを「束ねられた力」として十二分に発揮できるよう、その下支えに努めてまいります。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 内藤久司

Tel.998-0606



会報のバックナンバーはホームページでどうぞ！

<http://iland-matsuyama.infoseek.ne.jp>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆

☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆